

医学部 看護学科(論文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

- 〔Ⅰ〕 課題文は、佐々涼子の著書『エンド・オブ・ライフ』の一部です。出題範囲は、疾患により余命告知を受け壮年期の終末期がん患者となった訪問看護師が残された人生と死と向き合う心情、在宅医療と在宅療養者の特徴などが表現された場面です。看護職を目指す受験生へ、対象理解、人権の尊重、倫理観、社会的課題、問題意識、表現力、論理的思考を問い、総合的に評価します。まず（１）では、療養者本人の考えを問い、特に対象理解力や表現力を問うています。さらに（２）では、治療により回復が見込めず余命告知を受けた在宅療養患者に対する関わりについて問い、特に問題意識と論理的思考を問うています。
- 〔Ⅱ〕 本問では疾患をもつ家族をケアする家族介護者を対象としたコンパッションを養うプログラムが、家族介護者の精神的苦痛を軽減したかどうかを検証した、デンマークの研究結果を示しています。まず（１）では、受験者が図表の数値を読み取ることに加え、コンパッションの考えに沿ってプログラムの効果を考察できる分析力を問うています。さらに（２）では、コンパッションが必要となる人の立場を例示させ、その理由と望ましい支援について述べさせることで、様々な立場にある人への日ごろの問題意識と、コンパッションの考え方の実際の問題への応用力を問うたものです。

□■ 受験生へのメッセージ

出題は、終末期を迎えた看護師の経験や精神疾患のある人を支える家族介護者のケアを課題とし、人間が生きることへの深い理解、人間性、尊厳の尊重など倫理的な側面や社会的な課題をとらえ、それに対する問題意識、表現力、論理的思考を問う問題です。これらは、今日の保健医療福祉の分野に関する課題であり、各々に対する課題意識や関心、自己の考え等を含め、理解力、分析力、表現力、倫理観等を総合的に問うたものです。看護職を目指す受験生には、日頃より、国内外の保健医療福祉におけるさまざまな課題に対する意識や関心を高く持つとともに、それらに対する自己の考えについて十分に深めておくことを期待します。